

1. 略歴

- 1988年3月 東京大学文学部国文学専修課程卒業
1988年4月 東京大学大学院人文科学研究科国語国文学修士課程入学
1991年3月 同 修了
1991年4月 東京大学大学院人文科学研究科国語国文学博士課程進学
1996年3月 東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻日本語日本文学
専門分野博士課程単位取得退学
1996年4月 東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻日本語日本文学
専門分野研究生（～1997年3月）
1998年4月 博士（文学）学位取得（東京大学）
1998年4月 関西学院大学文学部専任講師
2002年4月 関西学院大学文学部助教授（2007年4月より准教授）
2008年4月 関西学院大学文学部教授
2013年4月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

平安仮名文学、源氏物語

b 研究課題

源氏物語は、平安前期に成立した長編物語・歌物語・和歌の発想を基盤とし、日記文学・漢詩文・史実等を貪婪に吸収して成立したと思われる。そこに到りつくまでの文学史的な動態、及び、源氏物語それ自体の構造や表現の分析を主な研究課題としており、初期の成果は『源氏物語の思考』（風間書房、2002年、第五回紫式部学術賞受賞）にまとめた。また平安時代の人々の思考や発想の形式にも関心を寄せており、和歌の贈答の分析を通じた意思伝達の呼吸などについて、『女から詠む歌 源氏物語の贈答歌』（青簡舎、2008年）に提案した。そのほか、研究成果を一般の人々に分かりやすく伝える仕事として、瀬戸内寂聴訳源氏物語の注釈等の執筆のほか『男読み 源氏物語』（朝日新書、2008年）、『コレクション日本歌人選 和泉式部』（笠間書院、2011年）、『平安文学でわかる恋の法則』（ちくまプリマー新書、2011年）等の一般書も手掛けている。

c 概要と自己評価

昨今の源氏物語研究がともすると作品の周辺の歴史的事実や享受史的な事実などの解明に偏りがちである現状を憂慮し、物語そのものを論じるために、これまでの方法論的成果をより発展的に次世代へと継承することが喫緊の課題であると考えている。今期は作品分析の方法論的な関心や思考形式について、いくつかの論考をまとめることができた。これを核として、論文集としてまとめるための準備を進めているところである。

d 主要業績

(1) 論文

- 高木和子、「『源氏物語』の構成原理」、『源氏物語 煌めくことばの世界』、105-119頁、2014.4
高木和子、「物語的空間と時間一場面を構築する仕組み―」、『新時代の源氏学 1 源氏物語の生成と再構築』、209-231頁、2014.5
高木和子、「『源氏物語』に現れた手紙―求愛の和歌の贈答を中心に―」、『歴史語用論の世界 文法化・待遇表現・発話行為』、271-297頁、2014.6
高木和子、「源氏物語における系図の変容―桐壺院の皇子達と朱雀朝の後宮―」、『国語と国文学』、91-111、2014.11
高木和子、「源氏物語における贈答歌の表現の照応関係について」、『文学』、16-1、2015.1
高木和子、「源氏物語における人物造型の方法」、『源氏物語読みの現在 研究と資料 古代文学論叢第二十輯』、89-112頁、2015.4
高木和子、「源氏物語における長編化の方法」、『むらさき』、52、14-22頁、2015.12

(2) 学会発表

- 国内、高木和子、「源氏物語における長編化の方法」、紫式部学会講演会、東京大学（本郷）、2014.12.13

(3) 啓蒙

高田祐彦・高木和子、「〈対談〉源氏物語一作品の地平・研究の地平」、『文学』、16-1、2-31 頁、2015.1

3. 主な社会活動

(1) 機関での講義等

特別講演、兵庫県高等学校教育委員会国語部会秋季研究協議会、「源氏物語若紫卷再考」、2015.11

(2) 学会

国内、中古文学会、常任委員・編集委員、2015.6～

国内、紫式部学会、理事、2015.7～